

薬用植物園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2018年
11月13日
第55号



ハナトリカブト (キンポウゲ科)

温室横、鉢植えに一株美しい紫色の烏帽子形の花が見られます。名古屋はトリカブト属植物にとっては暑すぎて毎年元気がなく、数年ぶりに咲きました。北半球の温帯に広く分布する多年草で、日本では全国で30種以上が知られています。生薬としては、塊根を乾燥させたものを烏頭(ウズ)、それを加熱して減毒処理したものを附子(ブシ)と呼びます。漢方では腎虚、すなわち新陳代謝の衰えた状態に使用する真武湯や八味地黄丸等に配合されます。成分に植物では最強と言われる有毒成分のアコニチン系アルカロイドを全草に含み、殺人事件に使われたこともあります。葉はゲンノショウコやニンソウに似ていて間違えやすいので、花の無い時の地上部だけで判断して使用するのは危険です。

ツワフキ (キク科)

今、自然植物区に入ると鮮やかな黄色の花が目に入ります。関東以西に生える常緑多年草で、主に園芸用として栽培されています。フキに似ていますが、葉は厚みがあり、表面は光沢のある深緑色をしています。葉がフキに似ていること、「つや」のあることからこの名があります。薬用としては、伝統医学では使われず、民間薬として根茎を橐吾(タクゴ)、地上部を蓮蓬草(レンホウソウ)と呼び、共に健胃、食あたり、下痢に用います。生葉の青汁、炙った葉を打撲、打ち身、擦り傷に塗ったり貼ったりして使います。葉柄をフキと同様に食用にします。

今、こんな草木が楽しめますよ！！